2026 年度 大阪赤十字病院皮膚科

A．専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で，皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる充分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に，皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し，関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり，患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として，医の倫理の確立に努め，医療情報の開示など社会的要望に応える。

B．プログラムの概要：

本プログラムは、大阪赤十字病院を研修基幹施設として、大津赤十字病院、長浜赤十字病院、滋賀県立総合病院、医療法人財団医道会十条武田リハビリテーション病院、医療法人医仁会武田総合病院、社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院、医療法人社団洛和会洛和会音羽病院、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、国立大学法人京都大学医学部附属病院、高槻赤十字病院、公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院、社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会野江病院、近畿大学病院、国家公務員共済組合連合会枚方公済病院、社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会中津病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、日本赤十字社和歌山医療センター、独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、公益財団法人天理よろづ相談所病院、公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院を研修連携施設として、福井赤十字病院、北山武田病院、武田病院、宇治武田病院、医療法人徳洲会宇治徳洲会病院、医療法人啓信会京都きづ川病院、三菱京都病院、医療法人清仁会洛西ニュータウン病院、関西電力病院、独立行政法人地域医療機能推進機構星ヶ丘医療センター、赤穂市民病院、公立豊岡病院組合立豊岡病院、医療法人啓信会きづ川クリニックを準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。
なお，本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目Ｊを参照のこと）

C．研修体制

研修基幹施設：大阪赤十字病院皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）： 八木　洋輔　 専門領域：皮膚科一般皮膚腫瘍、創傷治癒

指導医： 改正　純一　 専門領域：

施設特徴：
ケミカルピーリング､イオントフォレーシスなどの設備があり、尋常性痤瘡、局所性多汗症、さらには美容皮膚科や静脈瘤などの治療が可能であり、様々な経験を積むことができる。さらに、形成外科や小児科、循環器内科などの他科とのチーム医療を経験することができる。

研修連携施設：大津赤十字病院

所在地：滋賀県大津市長等1丁目1-35

プログラム連携施設担当者（指導医）：福岡　美友紀

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：長浜赤十字病院

所在地：滋賀県長浜市宮前町１４番７号

プログラム連携施設担当者（指導医）：川端　紀子

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：滋賀県立総合病院

所在地：滋賀県守山市守山5丁目4番30号

プログラム連携施設担当者（指導医）：中川　雄仁

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：医療法人財団医道会　十条武田リハビリテーション病院

所在地：京都市南区吉祥院八反田32

プログラム連携施設担当者（指導医）：米田　耕造

特徴：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：医療法人医仁会　武田総合病院

所在地：京都市伏見区石田森南町28-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：松井　美萌

特徴：指導医のもと、外来診療、入院症例、他科からの対診症例、救急症例から実臨床を学ぶことが出来る。臨床カンファレンス、創傷カンファレンス（形成外科医。循環器内科医、ＷＯＣ認定看護師などと開催）を通じて個々の症例の理解を深めることが可能である。年に数回の学会発表をはじめ、学会、カンファレンス、地域の医師との症例検討会などにも参加して研鑽を積む事が出来る。院内研修会（医療安全、褥瘡委員会等）では、大学教官等に来院いただいており、知識のブラッシュアップを図ることが可能である。

研修連携施設：社会福祉法人京都社会事業財団　京都桂病院

所在地：京都市西京区山田平尾町17番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：石川　牧子

特徴：指導医の下，市中病院の勤務医として，外来/病棟診療，処置，手術法を習得する。病理医とのカンファレンスは月１回程度あり、症例検討を行いながら学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

研修連携施設：医療法人社団洛和会　洛和会音羽病院

所在地：京都市山科区音羽珍事町2

プログラム連携施設担当者（指導医）：清水平　ちひろ

特徴：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：独立行政法人国立病院機構京都医療センター

所在地：京都市伏見区深草向畑町1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：十一　英子

特徴：指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法や、皮膚科医として必要な診断力と診療技術を習得する。カンファレンスで症例検討を行い、症例についての理解を深める。生検症例はすべて病理カンファレンスで直接所見をよむ。複数科で診療する症例は、他科との合同カンファレンスで治療方針を検討し、チーム医療を学ぶ。褥瘡回診に参加し、褥瘡対策を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、筆頭演者として学会発表を行い、論文を執筆する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

研修連携施設：国立大学法人　京都大学医学部附属病院

所在地：京都市左京区聖護院川原町54番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：椛島　健治

特徴：指導医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。カンファレンス，抄読会に週１回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：高槻赤十字病院

所在地：大阪府高槻市阿武野1-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：古川　福実

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院

所在地：大阪市北区扇町2丁目4番20号

プログラム連携施設担当者（指導医）：吉川　義顕

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：社会福祉法人恩賜財団　大阪府済生会野江病院

所在地：大阪市城東区古市1丁目3番25号

プログラム連携施設担当者（指導医）：谷口　君香

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：近畿大学病院

所在地：大阪府堺市南区三原台1丁14番1号

プログラム連携施設担当者（指導医）：大塚　篤司

特徴：皮膚科専攻医１年目、２年目、３年目と屋根瓦式に指導医を含めたチームとなり診療にあたる。大阪府の大和川以南に存在する唯一の大学病院であり、専門医取得に必要なさまざまな症例を経験することができる。研修期間内に様々な症例を経験し、学会発表や論文指導もうけることができ、皮膚外科ならびに皮膚病理の専門家もおり、多くのスキル指導をうけることができる。

研修連携施設：国家公務員共済組合連合会　枚方公済病院

所在地：大阪府枚方市藤阪東町1-2-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：立花　隆夫

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：社会福祉法人恩賜財団済生会支部　大阪府済生会中津病院

所在地：大阪市北区芝田２－１０－３９

プログラム連携施設担当者（指導医）：荒井　利恵

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：兵庫県立尼崎総合医療センター

所在地：兵庫県尼崎市東難波町2丁目17番77号

プログラム連携施設担当者（指導医）：工藤　比等志

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：日本赤十字社　和歌山医療センター

所在地：和歌山県和歌山市小松原通4丁目20

プログラム連携施設担当者（指導医）：米井　希

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：独立行政法人　国立病院機構　鹿児島医療センター

所在地：鹿児島県鹿児島市城山町８番１号

プログラム連携施設担当者（指導医）：松下　茂人

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：神戸市立医療センター中央市民病院

所在地：神戸市中央区港島南町２－１－１

プログラム連携施設担当者（指導医）：長野　徹

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：公益財団法人　天理よろづ相談所病院

所在地：奈良県天理市三島町２００番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：古田　浩大

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修連携施設：公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構　倉敷中央病院

所在地：岡山県倉敷市美和1-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：大谷　稔男

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修準連携施設：福井赤十字病院

所在地：福井県福井市月見2丁目4番1号

研修準連携施設：北山武田病院

所在地：京都市北区上賀茂岩ケ垣内町99番地

研修準連携施設：武田病院

所在地：京都府京都市下京区塩小路通西洞院東入東塩小路町841番地の5

研修準連携施設：宇治武田病院

研修準連携施設：医療法人徳洲会　宇治徳洲会病院

研修準連携施設：医療法人啓信会　京都きづ川病院

研修準連携施設：三菱京都病院

研修準連携施設：医療法人清仁会　洛西ニュータウン病院

研修準連携施設：関西電力病院

研修準連携施設：独立行政法人　地域医療機能推進機構　星ヶ丘医療センター

研修準連携施設：赤穂市民病院

研修準連携施設：公立豊岡病院組合立豊岡病院

研修準連携施設：医療法人　啓信会　きづ川クリニック

研修管理委員会に関して

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者，プログラム連携施設担当者，指導医，他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は，専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる。

研修管理委員会委員：

委員長：八木　洋輔 (大阪赤十字病院皮膚科副部長)
委員：野村　尚史 (京都大学皮膚科特定准教授)
委員：清水平　ちひろ (洛和会音羽病院皮膚科部長)
委員：石川　牧子 (京都桂病院皮膚科部長)
委員：松井　美萌 (医仁会武田総合病院皮膚科部長)
委員：米田　耕造 (十条リハビリテーション病院皮膚科部長)
委員：中川　雄仁 (滋賀県立総合病院皮膚科部長)
委員：大塚　篤司 (近畿大学皮膚科教授)
委員：十一　英子 (京都医療センター皮膚科部長)

他科・他職種

血液内科：今田　和典 (副院長兼血液内科主任部長兼輸血部長兼総合内科部長)
形成外科：内藤　浩 (大阪赤十字病院形成外科部長)
看護部：安藤　嘉子 (大阪赤十字病院看護部師長)

研修資源実績（外来患者数・入院患者数・指導医数：本プログラムの按分数）

	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔年間手術数（含生検術）	全身麻酔年間手術数	指導医数
大阪赤十字病院	61.1	7.08	771	43	2.5
大津赤十字病院	1	0.1	132	0	0.2
長浜赤十字病院	1	0.2	282	0	0.1
滋賀県立総合病院	1	0.1	281	0	0.1
医療法人財団医道会　十条武田リハビリテーション病院	2	0.4	38	0	0.2
医療法人医仁会　武田総合病院	1	0.1	332	3	0.1
社会福祉法人京都社会事業財団　京都桂病院	1	0.1	235	0	0.1
医療法人社団洛和会　洛和会音羽病院	1	1	159	0	0.5
独立行政法人国立病院機構京都医療センター	1	0.1	366	0	0.1
国立大学法人　京都大学医学部附属病院	1	1	1647	112	0.1
高槻赤十字病院	1	0.1	55	0	0.1
公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院	1	0.1	362	0	0.1
社会福祉法人恩賜財団　大阪府済生会野江病院	0.1	0.1	146	0	0.1
近畿大学病院	10	1	434	47	0.1
国家公務員共済組合連合会　枚方公済病院	1	0.45	243	11	0.1
社会福祉法人恩賜財団済生会支部　大阪府済生会中津病院	1	0.1	337	0	0.1
兵庫県立尼崎総合医療センター					
日本赤十字社　和歌山医療センター	1	0.1	531	0	0.1
独立行政法人　国立病院機構鹿児島医療センター	1	0.1	922	191	0.05
神戸市立医療センター中央市民病院	1	0.1	1000	114	0.05
公益財団法人　天理よろづ相談所病院					
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構　倉敷中央病院	1	0.05	345	0	0.03
合計	89.2	12.38	8618	521	4.83

D．募集定員：2名

①通常プログラム：2名

E．研修応募者の選考方法：

書類審査，面接により決定（大阪赤十字病院皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を大阪赤十字病院皮膚科のホームページよりダウンロードし、履歴書と併せて提出すること。

F．研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の3月31日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G．研修プログラム　問い合わせ先：

大阪赤十字病院
八木 洋輔

TEL：06-6774-5111
FAX：06-6774-5131
メールアドレス：yagy3324@gmail.com

H．到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムのp.26～27には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I．研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い，研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。
１．大阪赤十字病院皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後，難治性疾患，稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え，教育・研究などの総合力を培う。また，少なくとも１年間の研修を行う。
２．京都大学附属病院皮膚科、洛和会音羽病院皮膚科、京都桂病院皮膚科、医仁会武田総合病院皮膚科、十条武田リハビリテーション病院皮膚科、滋賀県立総合病院皮膚科、近畿大学付属病院、京都医療センターでは，急性期疾患，頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い，地域医療の実践、病診連携を習得し、大阪赤十字病院皮膚科の研修を補完する。
３．準連携施設である北山武田病院皮膚科、公立豊岡病院皮膚科、京都きづ川病院皮膚科、赤穂市民病院皮膚科、康生会武田病院皮膚科、宇治徳洲会病院、関西電力病院皮膚科では一人医長として最長2年間の研修を行う可能性がある。ここで研修する専攻医は、大阪赤十字病院皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。上記の連携研修施設または、指導医不在の一人医長として研修を行う準連携施設で，原則として少なくとも３ヶ月の研修を行う。

J．研修内容について

１．研修コース

本研修プログラムでは，以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。 ただし，研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また，記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹	基幹	準連携	連携	連携
b	基幹	連携	連携	準連携	基幹
c	基幹	基幹	連携	連携	準連携

a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが，諸事情により2年間同一施設もあり得る。
b：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
c：研修5年目に一人医長として研修準連携施設で研修し，地域医療の経験を積むことで，更に臨床医としての研修に重点をおいたコース。

２．研修方法
１）大阪赤十字病院皮膚科
外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。また，地域医療の中核病院の勤務医として第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。
病棟：部長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。
抄読会では１回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 手術	外来	外来	外来	外来		
午後	手術 病棟回診	病棟 症例ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 抄読会	手術 病棟 病理ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	手術 病棟		

※宿直は2回／月を予定

2）連携施設

大津赤十字病院：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟		
午後	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟		

長浜赤十字病院：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

滋賀県立総合病院：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
	生検処置	生検処置	生検処置	生検処置	生検処置		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
	回診カンファ			病理カンファ			

医療法人財団医道会　十条武田リハビリテーション病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来		外来	外来	外来	外来	
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
	手術		カンファレンス		手術		

医療法人医仁会　武田総合病院：
指導医のもと、外来診療、入院症例、他科からの対診症例、救急症例から実臨床を学ぶことが出来る。臨床カンファレンス、創傷カンファレンス（形成外科医。循環器内科医、ＷＯＣ認定看護師などと開催）を通じて個々の症例の理解を深めることが可能である。年に数回の学会発表をはじめ、学会、カンファレンス、地域の医師との症例検討会などにも参加して研鑽を積む事が出来る。院内研修会（医療安全、褥瘡委員会等）では、大学教官等に来院いただいており、知識のブラッシュアップを図ることが可能である。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟対診処置・手術・紫外線治療	病棟対診処置・手術・紫外線治療	病棟対診	病棟対診処置・手術・紫外線治療	病棟対診処置・手術・紫外線治療	病棟対診	
	院内カンファレンス・会議	創傷カンファレンス	アトピー・スキンケア外来	臨床カンファレンス	褥瘡回診		

社会福祉法人京都社会事業財団　京都桂病院：
指導医の下，市中病院の勤務医として，外来/病棟診療，処置，手術法を習得する。病理医とのカンファレンスは月１回程度あり、症例検討を行いながら学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術・生検・紫外線治療などの処置中心	病棟 手術・生検・紫外線治療などの処置中心	病棟 手術・生検・紫外線治療などの処置中心	病棟 手術・生検・紫外線治療などの処置中心	病棟 手術・生検・紫外線治療などの処置中心		
				褥瘡回診		カンファレンス	

※病理カンファレンス　１回／月を予定 毎朝夕に皮膚科入院患者の回診

医療法人社団洛和会　洛和会音羽病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
		カンファ	外来	手術		宿直	

※宿直は２回／月を予定

独立行政法人国立病院機構京都医療センター：
指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法や、皮膚科医として必要な診断力と診療技術を習得する。カンファレンスで症例検討を行い、症例についての理解を深める。生検症例はすべて病理カンファレンスで直接所見をよむ。複数科で診療する症例は、他科との合同カンファレンスで治療方針を検討し、チーム医療を学ぶ。褥瘡回診に参加し、褥瘡対策を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、筆頭演者として学会発表を行い、論文を執筆する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前午後前半	外来 生検、処置	外来 生検、処置	外来 生検、処置	外来 生検、処置	外来 生検、処置		
午後後半	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
	回診		褥瘡回診		回診		
	合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ*	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病理カンファレンス	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	当直	

＊糖尿病足病変ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ､皮膚形成ｶﾝﾌｧﾚﾝｽを各１回／月 ※当直は２回／月を予定

国立大学法人　京都大学医学部附属病院：
指導医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。カンファレンス，抄読会に週１回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
		手術		手術			
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
	手術	病理ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	外来 回診 症例カンファレンス	手術	手術 抄読会		

※宿直は１回／月を予定

高槻赤十字病院：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

社会福祉法人恩賜財団　大阪府済生会野江病院：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

近畿大学病院：
皮膚科専攻医１年目、２年目、３年目と屋根瓦式に指導医を含めたチームとなり診療にあたる。大阪府の大和川以南に存在する唯一の大学病院であり、専門医取得に必要なさまざまな症例を経験することができる。研修期間内に様々な症例を経験し、学会発表や論文指導もうけることができ、皮膚外科ならびに皮膚病理の専門家もおり、多くのスキル指導をうけることができる。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	病棟	病棟	外勤	外勤	病棟	
午後	病棟	病棟	外来	病棟	病棟		
			医局会				

※宿直は１回／月を予定

国家公務員共済組合連合会　枚方公済病院：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

社会福祉法人恩賜財団済生会支部　大阪府済生会中津病院：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

兵庫県立尼崎総合医療センター：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

日本赤十字社　和歌山医療センター：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

独立行政法人　国立病院機構　鹿児島医療センター：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

神戸市立医療センター中央市民病院：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

公益財団法人　天理よろづ相談所病院：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構　倉敷中央病院：
地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

福井赤十字病院

地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表

を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

北山武田病院

地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

武田病院

地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	１年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 ２年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し，専攻医の研修状況の確認を行う（開催時期は年度によって異なる）
1	
2	５年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し，年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K．各年度の目標：

１，２年目：主に大阪赤十字病院皮膚科において，カリキュラムに定められた一般目標，個別目標（1.基本的知識2.診療技術3.薬物療法・手術・処置技術・その他治療4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識5.生涯教育）を学習し，経験目標（1.臨床症例経験2.手術症例経験3.検査経験）を中心に研修する。
３年目：経験目標を概ね修了し，皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
４，５年目：経験目標疾患をすべて経験し，学習目標として定められている難治性疾患，稀な疾患など，より専門性の高い疾患の研修を行う。３年目までに習得した知識，技術をさらに深化・確実なものとし，生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、大阪地方会、京滋地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L．研修実績の記録：

１．「研修の記録」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，利用すること。
２．「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。
３．専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
４．専攻医，指導医，総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。
５．「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特にp.15〜16では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M．研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。
１．専攻医は「研修の記録」のA.形成的評価票に自己評価を記入し，毎年３月末頃に指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。
２．専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
３．指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また，看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
４．研修プログラム責任者は，研修プログラム管理委員会を開催し，提出された評価票を元に次年度の研修内容，プログラム，研修環境の改善を検討する。
５．専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」，経験症例レポート15例，手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し，総括評価を受ける。
６．研修プログラム責任者は，研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し，総括評価を記載した研修修了証明書を発行し，皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N．研修の休止・中断，異動：

１．研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
２．研修期間のうち，産休・育休に伴い研修を休止いている期間は最大６ヶ月までは研修期間に認められる。なお，出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
３．諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要が生じた場合，すみやかにプログラム統括責任者に連絡し，中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O．労務条件，労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。
給与，休暇等については各施設のホームページを参照，あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね2〜3回/月程度である。

2026年4月21日
大阪赤十字病院皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
八木　洋輔